

来週の「売り物」記事はこれ



2011年9月16日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

東日本大震災暮らしどうなる・絆支援員

くらしナビA面 20日(火)

阪神大震災では仮設住宅での孤独死や自殺が相次ぎました。こうした過去の事態を踏まえ、東日本大震災の被災地では、自治体が被災者を見守る活動に力を入れています。仙台市で導入された「絆支援員」を取材し、被災者の現状や支援員らの奮闘を追いました。



NYからテロを考える小学生 くらしナビA面 21日(水)



米同時多発テロから今年で10年となります。この8月下旬、毎日小学生新聞の読者の親子22人がテロの現場となった米ニューヨークを訪れました。現場の土を踏んだ子どもたちが、命の尊さや平和の大切さなど何を感じ取ったのか、子どもたちの声から探りました。

鉛筆部隊反響特集

くらしナビA面 23日(金)

8月8日から3回に渡って連載した「鉛筆部隊 疎開の記憶 今も」。太平洋戦争中、長野県の浅間温泉に集団疎開した代沢国民学校の子どもたちが特攻隊員と交流した温かく切ない交流の思い出を取り上げました。連載に寄せられた多数の反響を紹介します。



運動面企画インサイド 第3部

現役選手としての青木功を描く—「体・技・心」 20日から連載



名プロゴルファー、青木功さん=写真=の人生を描くシリーズの第3部は、今もシニアツアーなどに積極参戦する「現役」としての姿に焦点を絞りました。69歳になった青木さんは今月8日の大会で、69の好スコアをマークし、3年ぶりとなるエージシュート(自身の年齢以下のスコアでラウンド)を達成。まだまだ力のあるところを見せています。それを可能にする、青木さんのあくなき探求心やプロ哲学とはいかなるものかを探ります。20日から5回を予定。

シリーズインタビュー「時代を駆ける」

i P S細胞研究の山中伸弥・京都大学教授

21日(水)から2週・8回

あらゆる細胞に変化する能力を持ったi P S細胞(人工多能性幹細胞)を、マウスや成人の皮膚細胞から作り出した京都大学教授の山中伸弥さん(49) = 写真 = が登場します。

世界を驚かせた2006年の成果から5年間に、国内外の主要な科学賞を総なめし、ノーベル賞もうわさされる気鋭の生命科学者です。昨春新設された京都大i P S細胞研究所の所長として、研究者・スタッフ約200人を率い、研究の最前線を走っています。



スポーツに打ち込んだ少年時代、臨床医から研究者への転身、大発見の経緯や研究への情熱を語ります。

大江健三郎さんら著名人が呼びかけ

実況中継「9・19」

反原発集会～その日、東京で何が起きたか

ザ・特集 9月22日(木)



一向に終息する気配のない福島原発事故。放射能がもたらす被害は日々、深刻度を増しています。そうしたなか、現代日本の「知性」を代表する、作家の大江健三郎さん = 写真、音楽家の坂本龍一さんらが呼びかけ人を務める、「反原発」の市民集会が9月19日、都内で開かれます。主催団体は約5万人の参加を見込み、最近にない大規模な市民集会となりそうです。従来の市民運動につきものの「デモ行進」を「パレード」と呼び、機動隊を挑発する「ジグザク行進」のかわりに、楽器を演奏したりするなど、これまでにない市民集会になりそうです。集会の様様を「実況中継」します。

“知りたいが分かる、が”モットーの木曜日朝刊の「ザ・特集」に、ご期待下さい。

紙面事情などにより掲載日が変更になることがあります。